



編集・発行 山見妙勢能報部  
〒563-0132 大阪府豊能郡野間中  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

### サルナートの釈尊

日慧

三〇年前のインド仏跡参拝旅行の写真が出て来た。

初めてのインドは、とても刺激的だった。特に忘れられないのは、サルナート考古博物館だ。

悟りを得た釈尊が最初に教えを説かれた初転法輪の地に立てられた博物館だ。三五歳の釈尊が説法している石像が収められている。仏教美術史上最高傑作の一つだと楽しみにしていたが博物館に入って驚いた。まったく無造作に部屋の一角に置かれていたのだ。等身大を越える像に、その気になれば手を触れることもできるほどだ。しかし端正

で慈愛に満ち満ちた釈尊に直接対面できた悦びは大きく、心底有難いと思った。

ところが、その三年後に再び訪れたときには、すっかり様子が変わっていた。同じお像が厳重なガラスケースの中に安置され、周囲は柵で囲われ、足下に近づくこともできなくなっていた。価値の高い美術品にふさわしい展示だろうが、ガラス越しの対面には、期待が裏切られた思いがした。

コロナ禍の今、人と人との間もアクリル板を立てたり、ビニールシートで仕切ったり、マスクで表情が見えなくなったりで距離感が広がってしまった。人と人とのコミュニケーションが十分にとれず、疎外感や孤独感

に苛まれる人が多いという。人との交わりがあつてこそ人間社会だ。これでは社会も人も正常な状態を保ちたいと懸念される。

しかし離れていても、心は障壁を越え自由に動く。サルナートでの体験が思い浮かぶ。ガラスケースによつて妨げられた空間だがお像に向かつて一心に掌を合わせた時、私は釈尊の存在をたしかに感じることが

できた。人と人との関係も同様だ。肌で触れあうことはできなくても、心の繋がりを信じ向かい合えば、きつと互いの存在を感じ合うことができるに違いない。

今も、目を閉じて念ずればサルナートの釈尊像が心に浮かぶ。優しく微笑み、くじけるんじゃないよ、きつと乗り越えることができるから、と励まして下さるお声が聞こえるようだ。

### 《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

#### 諸の如来の

#### 手をもつて

#### 其の頭を

#### 摩でたもつて

#### 為ん

頭ナデナデ いい子だね 嬉しいものです

それだけで そんな思い出あふでしよう たとえドライに見えたとつて ウエットなんです

今の子も スキンシップを 待ってます

此ることより

それが育てる 秘訣です

『普賢菩薩勸発品第二十八』

### 【5月の主な行事】

- ★写経会 9日(日)11時
- ★妙見大菩薩年大祭 15日(土) 11時 修法加持特別祈禱
- 11時50分 講話服部憲厚上人
- 13時 月例祈願法要
- ★鷗様月例祭 22日(土)15時
- ※清掃の日・星嶺演奏会・星嶺茶論は、ありません

### 【6月の行事予定】

- ★写経会 13日(日)11時
- ★清掃の日 15日(火)11時
- ★月例祈願法要 15日(火)13時
- ★鷗様月例祭 22日(火)15時
- ◎ご祈禱・ご回向等のお申し込みは、郵便・FAX・メールでも受付けております
- ※星嶺演奏会・茶論は当面の間 休止します

- いずれの行事も社会情勢により変更する場合があります
- 出合いの鐘巡りは「ひらがなあつめ」に代えて実施中
- 登山カード押印は中止
- 昇堂時はマスク・人数制限等 感染防止にご協力下さい
- 送迎車は運行していません
- ◆ケーブル&リフト毎日運行中

『ホーホケキヨ』

詠裡庵

暖かくなつて、山ではウグイスのど自慢が盛んに  
行われています。周囲を山  
に囲まれた能勢にいますと、  
この鳴き声は心を和ませて  
くれます。

ある日、二羽のウグイス  
が庭に降りてきて、エサを  
ついばんでいました。二羽  
はどちらも地面をクチバシ  
でつついて餌を探している  
ようです。そして顔を上げ  
ると、どちらも何か餌を口  
にして、お互いに見つめ  
合っていました。それを  
何度か繰り返しした後、やが  
て飛び去り、近くの木に止  
まって鳴き出しました。

「ホーホケキヨ」  
澄んだきれいな声でした  
から、ラブコールだったか  
も知れませんがね。

コロナ禍の今、食事中は  
しゃべらないよう静かに食  
べて、食べ終わってからマ

スクをつけて歓談しましよ  
うと言われています。ウグ  
イスたちも食べながら声を  
出すのは控えていたのだ  
でしょうか。

私が子供の頃は、家でも  
学校でも、静かに食べなさ  
い、と言われたものです。  
ところが三十年経って次の  
世代になると、給食時間は  
同じなのに、会話しながら  
食べましよう指導される  
ようになりました。ここで  
楽しく食べて栄養もしっか  
り身につけるようにと、家  
でも学校でも習慣が変わっ  
てきたようです。

それが、今は静かに食べ  
なくてはならないとは。コ  
ロナ禍が収まるまでのしば  
らくの間とは思うものの、  
大人にとつても子供にとつ  
ても大きな変化を強いられ  
る厳しい現状です。

ウグイスは一年中日本に  
住んでいる鳥です。寒い冬  
は鳴き声を出さずに、風の  
当たりにくい草の中にいま

スマホでも素晴らし  
い写真が撮れるよう  
なり、桜を前にしてス  
マホを構える人が多く  
見られました。私のス  
マホには何千枚もの写  
真が入っていますが、  
気付いたことがあります。  
何のため撮影した  
のかということでは  
無い出、記録、それと  
も人に見せるため？

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

なぜ撮ったのか、覚  
えていないものが多く  
あります。写真に収め  
て仕舞いにするのでは  
なく、肉眼で観たほう  
がすっかり心に残るよ  
うです。美しい風景、  
楽しい出来事を心の写  
真集に入れて、折に触  
れていつでも見ること  
ができるようにしてみ  
るのもいいのでは。  
K.J

す。カーテンを開け閉めす  
る音や廊下を歩く音などが  
すると、一斉に飛び去って  
見えなくなりました。暖かく  
なり、梅の花が咲く頃にな  
ると、「チツ、チツ、チツ、  
チツ」という声を聞くこと  
ができます。あの二羽のウ  
グイスもこの近くで生まれ  
育ったのでしょうか。

ウグイスたちと一緒にコ  
ロナ禍の収束を願って、  
「ホーホケキヨ」「妙法華経」  
と祈る毎日です。

**新型コロナウイルス対策について**  
・ご祈祷ご回向は、昇堂人数  
制限の上、開始時刻を設定  
**ご祈祷** 9時半・10時半・11時  
12時・13時・14時・15時  
**ご回向** 11時半・13時半  
※開始時刻の30分前までに、  
受付窓口へお越し下さい  
※ご参拝の際はなるべく事前  
のご連絡をお願いします  
**※妙見大菩薩年大祭**  
修法特別加持祈祷の  
申込受付中です

法華経茶話Ⅱ

縁起

存在のあり方の特  
質に関して仏教では  
独特の把握の仕方を  
しました。その理解  
の原理を「縁起」と  
いいます。

「縁起」とは、あらゆるも  
のは他のあるものに縁つて起  
こる（依存して現象する）と  
いう意味です。  
花を例に考えてみましょう。  
原因としての種子と、日  
光や水分などの条件がなけ  
れば花は咲きません。原因  
を「因」、条件を「縁」とい  
い、あらゆる物事は因と縁と  
によつて結果（果）として成  
立しているのです。以前お話  
した四聖諦でも、苦（思い  
通りにならない）という結果  
（果）は、集（欲望や煩惱）  
という原因（因）によつてお  
こり、滅（煩惱を滅した状態）  
という結果も道（煩惱を滅す  
ための修行の実践）を原因  
としていることが理解できる  
のです。